

患者背景

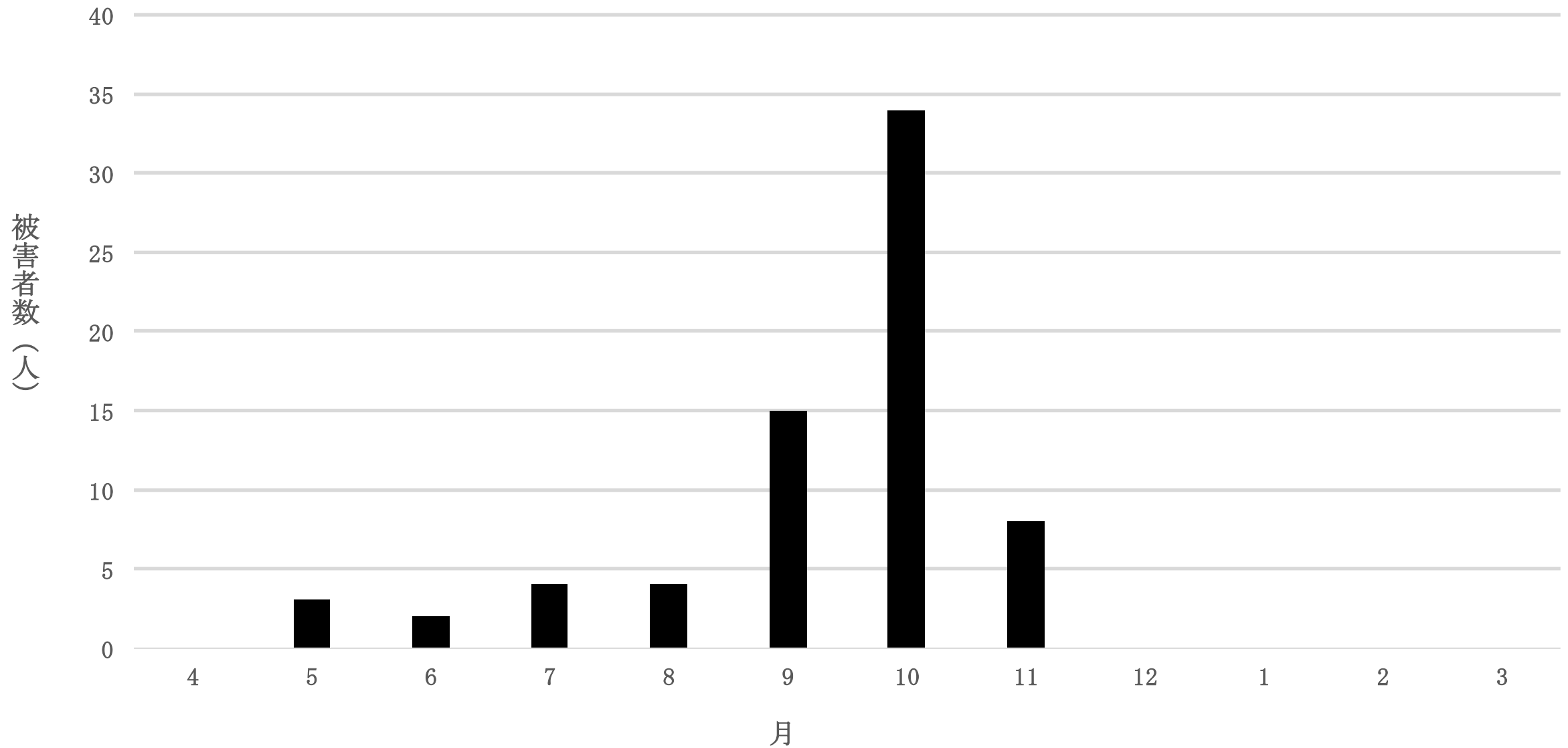
n=70		
年齢（歳）		
70.0(14-89)		
男		
70%(49)		
受傷場所	里・居住地	61.4%(43)
	山林	18.6%(13)
	田畑	20.0%(14)

患者背景

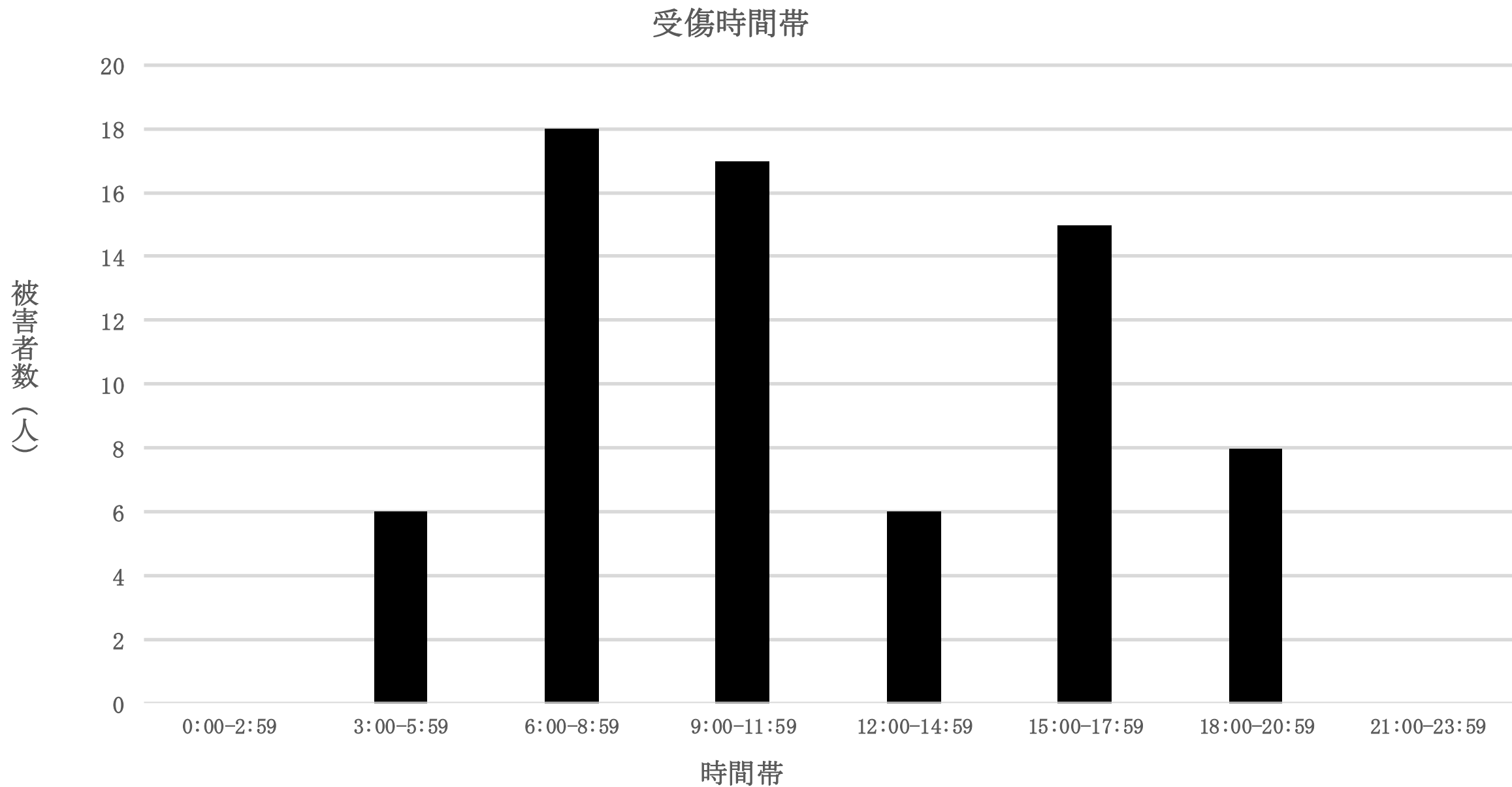
n=70		
年齢（歳）		70.0(14-89)
男		70%(49)
受傷場所	里・居住地	60.0%(42)
	山林	18.6%(13)
	田畑	21.4%(15)

受傷月

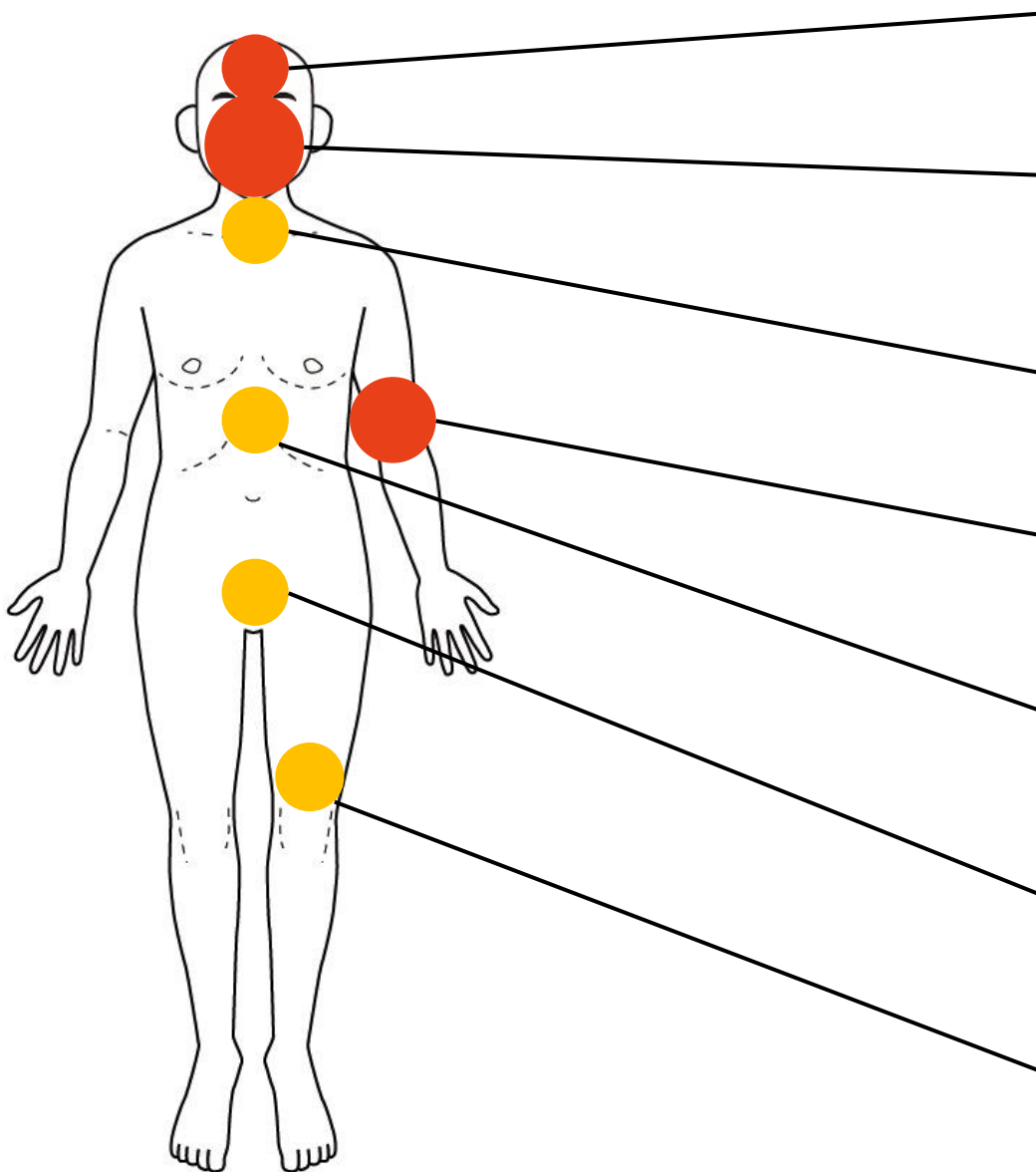
令和5年度被害者数



受傷時間帶



受傷部位



頭部 : 44.3% (31)

顔面 : 55.7% (39)

頸部 : 10.0% (7)

上肢 : 54.3% (38)

体幹部 : 28.6% (20)

骨盤部 : 2.9% (2)

下肢 : 31.4% (22) * 重複あり

残存障害

	障害数
顔面神経麻痺	6
眼球障害	4
手指可動域制限	2
感覚異常（顔面）	2
開口障害	1
肥厚性瘢痕（顔面）	1
良性発作性頭位めまい症	1
疼痛（上腕）	1

残存障害

顔面神経麻痺

眼球障害

手指可動域制限

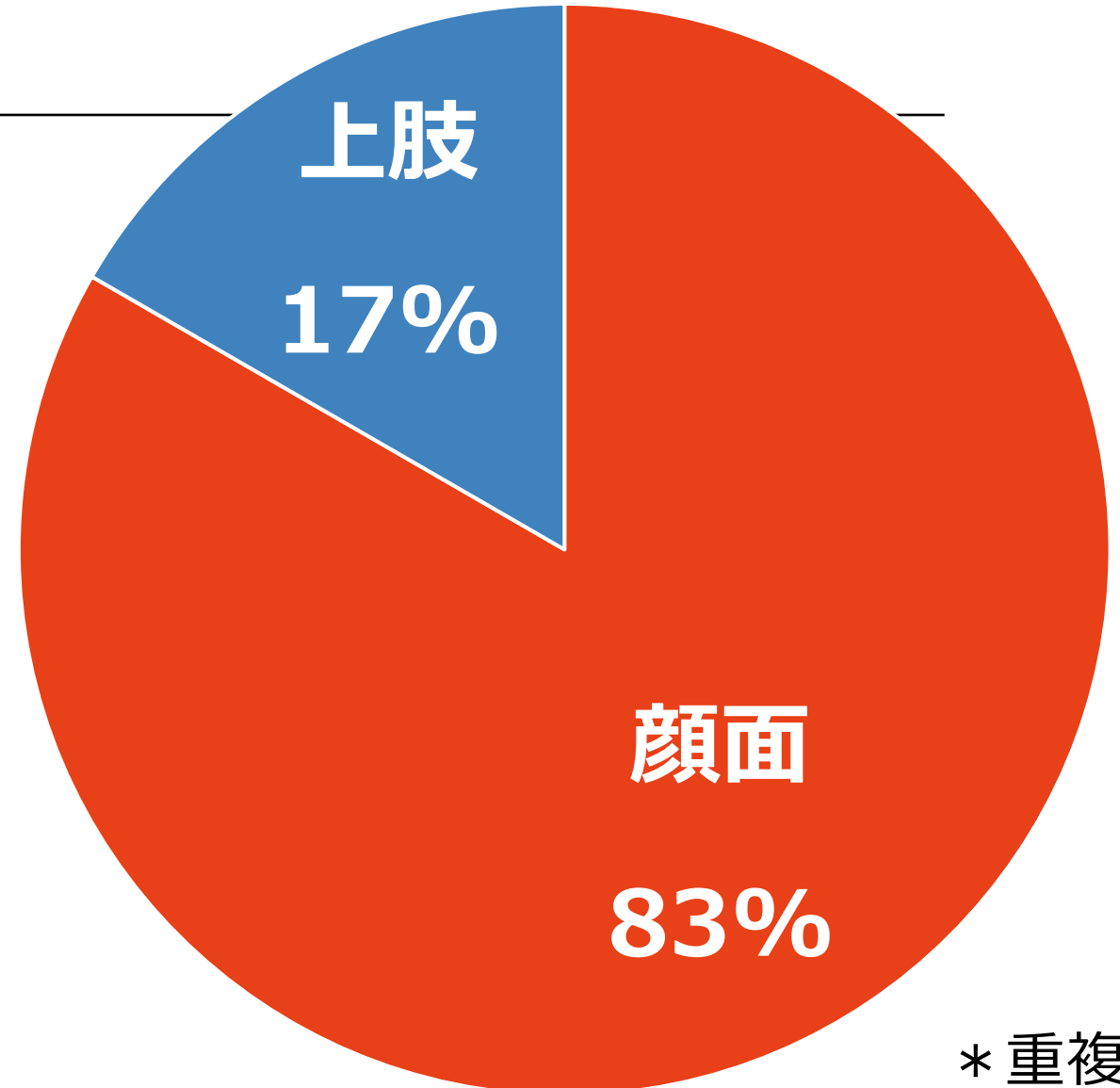
感覚異常（顔面）

開口障害

肥厚性瘢痕（顔面）

良性発作性頭位めまい症

疼痛（上腕）

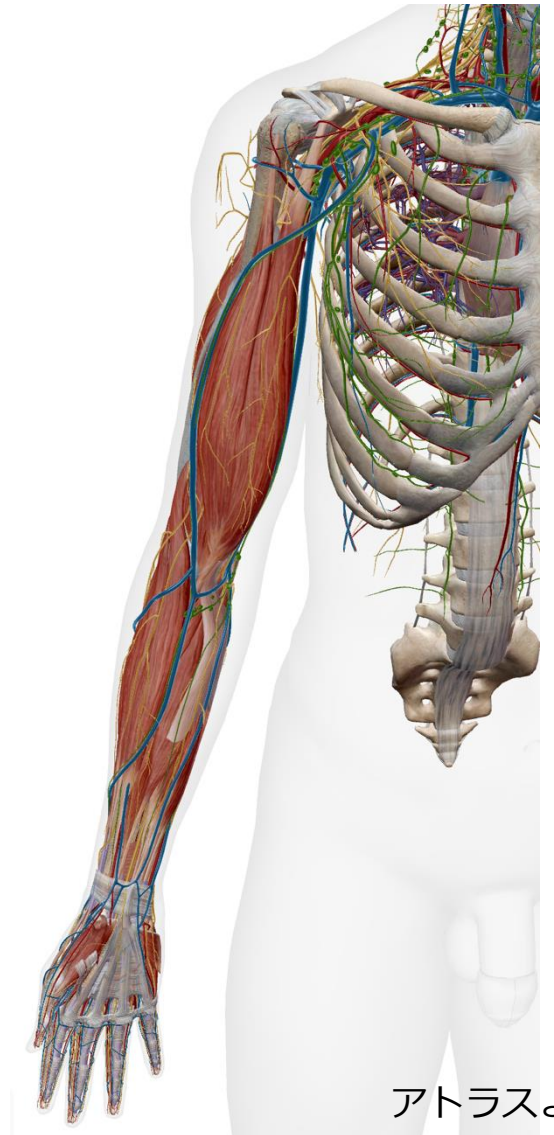
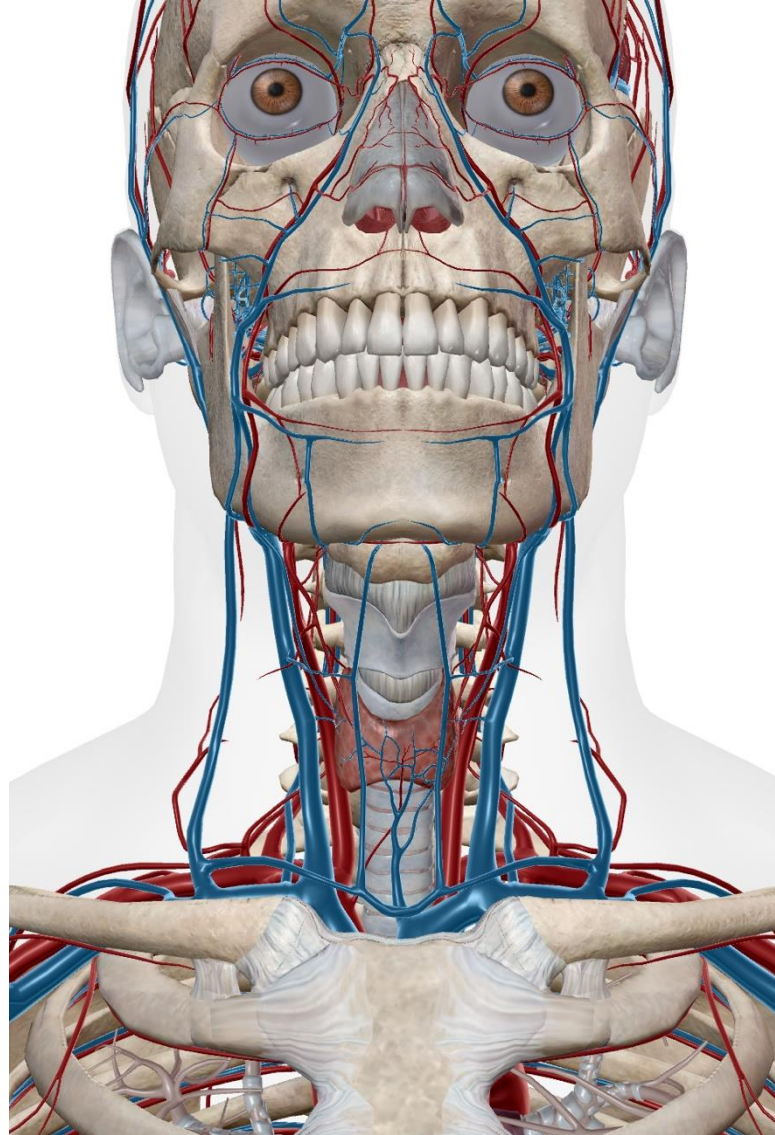
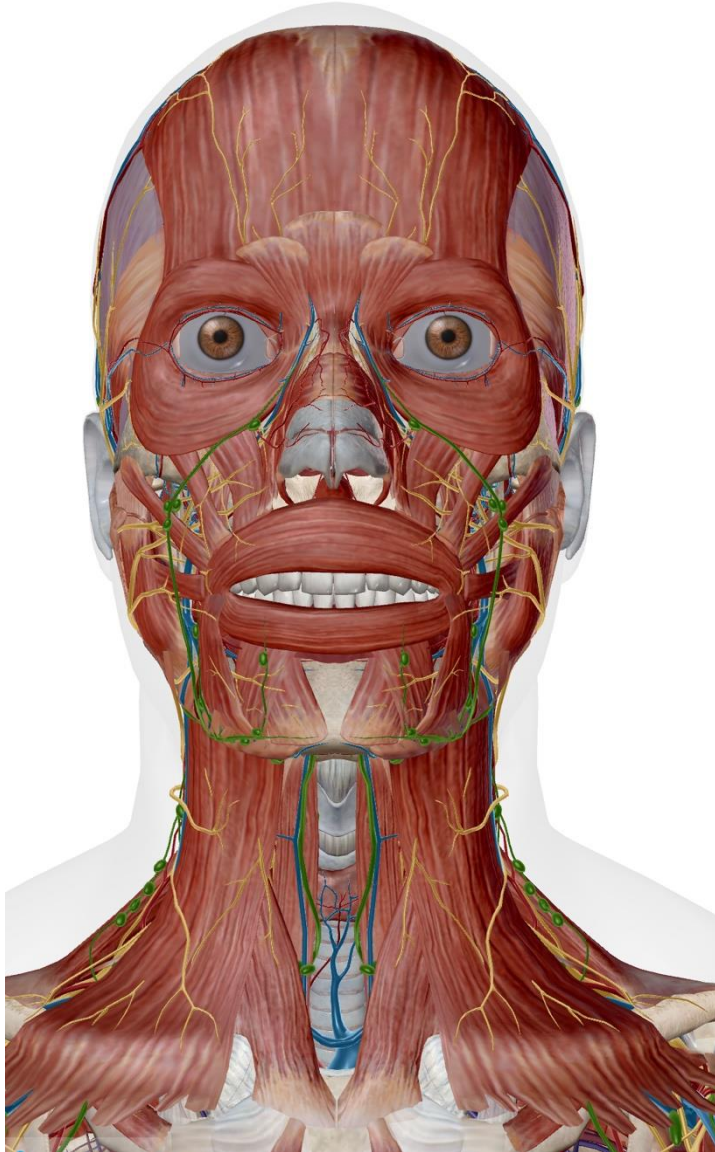


* 重複あり

重症度と関連因子の割合

		合計 (n=70)	重症 (n=23)	非重症 (n=47)
防御姿勢	有	10.0% (7)	0% (0)	14.9% (7)
	無	62.3% (44)	65.2% (15)	61.7% (29)
	不明	27.1%(19)	34.8%(8)	23.4%(11)
創種類	牙	11.4%(8)	4.3%(1)	14.9%(7)
	爪	41.4%(29)	39.1%(9)	42.6%(20)
	両方	40.0%(28)	56.5%(13)	31.9%(15)
	どちらでもない	14.3%(10)	21.7%(5)	10.6%(5)

考察 頭頸部・上肢の解剖



うつ伏せの有効性

➤クマ外傷は全身に生じうるが、特に**顔面**や**頭部**に集中

(鈴木真輔,頭頸部外,2018)

(高橋 学,日外傷会誌,2017)

➤クマが攻撃の際には立位を取るため、**頭頸部が標的**

(Rasool A, Injury, 2010)

(Tsuchida H, Acute Med Surg, 2024)

→姿勢を低くすることで**顔面・頭部**への殴打を減らせる可能性



クマ外傷の傷の特徴 爪と牙

Injury patterns of fatal bear attacks in Japan: A description of seven cases

Toru Oshima^{*}, Maki Ohtani, Sohtaro Mimasaka

Department of Forensic Sciences, Akita University Graduate School of Medicine, 1-1-1 Hondo, Akita City 010-8543, Japan

- 秋田大学法医学部の論文
- 秋田県のクマによる死亡症例の7献体の解剖を行い死因究明

爪と牙 防ぐべきは？

- 爪（殴打を伴う）による受傷が致命的
- 牙による創は死因には直結しない

(Oshima T,Forensic Science International,2018)

- 本研究でも，牙のみによる受傷症例では
8例中7例が非重症
- 重症例は転倒による頭蓋内出血



(Oshima T,Forensic Science International,2018)

牙よりも**爪**による損傷を優先して防ぐことが重要